

# KBI NEWS

# 60th ANNIVERSARY CROSS SPIRIT MISSIONS

KANSAI BIBLE INSTITUTE

〒630-0266 奈良県生駒市門前町22-1  
TEL : 0743-70-8600 FAX : 0743-70-8601  
編集・発行人：高橋めぐみ

Eメールアドレス：kbi-mark117@ares.eonet.ne.jp  
ホームページ：https://www.kbiwave.com  
郵便振替：01140-6-67708 銀行：尼崎信用金庫上ヶ原支店普通0015453

## KBI創立六十周年 この流れの中に

学院長 高橋 めぐみ



KBIは今年創立六十周年を迎えました。今日までご自身のご計画の為に、私たちを特別に呼び集め、遣わしてくださいといふ主をほめたたえます。

六十周年記念集会は予定していませんが、今回と次号のKBIニュースで特集ページを設け、それを記念の石と致します。また記念プロジェクトとして、  
①オンライン授業等の環境整備  
②オリジナル賛美CD制作も計画しております。KBIがこれからも宣教に前進していく学院であるように願っています。さて「この流れの中に」とい

う言葉は、KBI二十五周年記念誌、五十周年記念誌のタイトルでした。その言葉の通り、KBIは今に至るまで神様の豊かな流れの中にあります。スカンジナビアから中国周りで来た宣教師たちによって六十年前に小さな聖書学校がスタートし、その後二度の移転を経て今に至ります。

この流れはどこから来ているのでしょうか？それはもちろん神様からです。天地創造の時に「光、あれ」と言われる前からこの流れはありました。そしてこの流れは神の栄光の永遠へと向かっています。これを鳥瞰的に眺めると、神様がこだわり続けられた存在を見つけます。それは「人」です。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した」(エレミヤ三十一章三節)とありますが、待ち続け、尽くし続け、こだわり続けた、神様の諦めない、人への真実な愛が見えてきます。また、この大きな

流れの真ん中に大転換も見つけます。そこには十字架が扇の要として燦然と輝いています。「本当の人」として来られたイエス・キリストの十字架によって、人が変えられた歴史上の出来事です。その時から神の霊が信じる全ての人に注がれました。この流れは豊かに広がり続け、約二千年を経て私たちはこの流れの中に、二〇二一年を生きています。

神様は人をご自身の計画に招かれ、全被造物を支配する者、耕す者、祝福する者としてくださいました。神はそのように人を創造され、十字架を通してもう一度創造されたのです。

ですから私たちは神様が造られたように生きるべきです。この流れの中に、どんな時代であっても私たちは堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励んでいる者です。KBIがこのような「人」を集め、遣わす器として用いられるよう、お祈りをよろしくお願い致します。



# 1960~1970's 卒業生から 学生たちへメッセージ

## 十字架、聖霊の器を宣教地へ

一九六一年の秋、私は堺で始まったEBIに二十歳で入学しました。あれから六十年。卒業後六年間KBIの働きに関わる光栄に預かりましたが、これ程までに祝され用いられるようになるとは！主はすばらしいお方です。

KBIには、入学されるお一人お一人が十字架の経験、聖霊の経験をさらに深く、豊かに体験される場になり、聖霊に宣教地へ送り出して頂く学院になって欲しいです。主が、これからもKBIを主の働き人育成機関として用いて下さいますように祈っています。

### 元KBIカウンセラー 1960's 石崎 美恵子 師



▲「さあ、伝道に行つてらっしゃい(青いバスに乗る前)」  
右端が石崎師

### 1970's 可児福音教会 牧師 細江 和弥 師



▲1番左が当時の細江師

## KBIへの期待… 新時代の献身者

KBIに改称された年に入学して六十年を経た。今ある教会の活性化と増殖には、生ける神を真に体験し、信仰の従順を現わす教育を受けた献身者、新しい世代と子供達を、福音の活動に繋げられる器がどうしても必要である。

学生が聖書神学に通じ、魂の解放と真の真理の自由を知る人。その魅力ある人が、新しい宣教と教会形成の土台となるからである。

新時代の献身者の養成をKBIに期待したい。

# 十字架 Cross +

## 「十字架」

元KBI学院長  
高橋昭市師



われらの学院は創立以来六十  
年の道程を辿って来た。この全  
道程を貫いているのは、使徒パ  
ウロがガラテヤ人への手紙二章  
二十節で表明している「十字架  
のスピリット」である。以下に  
要点列挙の形で、われらの学院  
が通って来た道程を辿ってみる  
事にする。

◎発足…スウェーデン・オレブ  
ロ・ミッションが堺市大仙町  
で始めた、宣教師館での短期  
聖書コース。

◎移転…スウェーデンの独立宣

教師、ペトリ―師が西宮市に  
建てた関西福音センター（四  
階建て）の中へ移転し、この  
センター内に関学生と聖書学  
院生とが住み、毎木曜日夜の  
「ペトリ―師の集会」に出席  
することが義務づけられた。  
スウェーデンの宣教師と家  
族、日本人の教職者と家族も  
この建物の中に同居する特  
別な環境が形成された。北欧  
系の他のミッションも合流し  
た。

◎それ以後の諸経験…この六十  
年間に経験した大きな出来事  
を以下、列挙してみる。

○「甲子園ミッション」という  
大きな経験。甲子園球場の中  
に大きな説教壇が設けられ、  
説教者の招きに応じて、大群  
衆が暗闇の中を講壇に向かっ  
て殺到していった光景は忘れ  
る事が出来ない。

○阪神淡路大震災。高速道路  
が鉛ン棒のように湾曲した。  
われらの学院も建物に大きな  
損傷を受け、大修理か大移転

かの選択肢の前に立つ事とな  
った。

○生駒山中、既設の建物を改修し  
ての大移転ということになり今  
日に至っている。

○「新型コロナ」による大規模な  
変革が生活全般に渡って強い  
られる事となった。口をマスク  
で蔽うことが対人必須となり、  
「集会禁止」は従来型「伝道  
方式」を不可能にした。

○その他、「地球規模の異常な変  
化」を我々は経験し始めている。  
北極の氷山が崩れ始めたり、従  
来なかつた海流が生じたり…  
過去の経験の集約から絞り出し  
た「科学の法則」が適用されな  
い、異常な世紀末の世界へと我  
々は突入し始めているのである。  
予測できない異常な道を、我々  
が歩むことになる…  
ここで我らの道標である聖言  
を掲げる。

イエスは彼に言われた。  
「わたしが道であり、真理であ  
り、いのちなのです。わたしを  
通してでなければ、だれひとり  
父のみもとに来ることはあり

ません。…」ヨハネ十四章  
六節

これからの道がどんな道であ  
るか、全く予測できなくても、  
我らが選び取って歩んでいかな  
ければならない道は、明確に示  
されているではないか。



▶第一期卒業式  
左から四人目が高橋師

# 「聖霊が召した働き」

聖霊が「わたしが召した働きに就かせなさい。」と語られ、世界宣教が始まりました（使徒十三章二節）。聖霊がバルナバとサウロに宣教に出ていくよう導かれたのは、教会を通してでした。神がアンテオケ教会誕生を計画されましたが、キリストの体である教会として成長する時間も必要でした。そして、時が満ちて宣教派遣が実現したのです。アンテオケ教会が父なる神から委ねられていた召しに従順に従えるよう成長するまで、神の導きへの「霊的理解力と信仰の従順の力」を持つことが出来るよう、教会を祝福し、指導者たちを育成し、教会を宣教に押し出された方こそ「聖霊」ご自身でした。KBIも六十年間、聖霊により育てられ導かれ、召された働きに就かせて下さったことを心から感謝しています。堺のEBIから西宮でのKBI時代、神学校としての基礎が据えられた後、阪神大震災をきっかけにしての生駒への移転、KBIは大きくなったのではなく成長させられて来たのです。聖霊による天の霊的祝福の現実化が、「KBIの歩みという歴史」になったのです。

聖霊が召した働きをされる時、三つの重要なことが起こります。第一は、「神を知るための知恵と啓示を与え、霊性と信仰の成長を助けられる」ことです。（エペソ一章十七節〜十九節）父なる神のみこころを明らかにするための願いを与え、それを実現に至らせて下さるのです。第二に、「キリストの体意識を育て、賜物を豊かに」されます。（Iコリント十二章四節〜六節）今日、霊的同伴（Spiritual Direction）の牧会的必要が問われています。霊的同伴は互いの信仰を助け合い霊的成長に導く大切な働きですが、その基本は「もう一人の助け主なる方」（ヨハネ十四章十六節）の霊的同伴が最優先です。その結果、神の家族で



▲「神は愛なり」と刻まれたヤンソン師の墓碑



## 1980~1990's 卒業生から 学生たちへメッセージ

### 志を堅固に (イザヤ二十六章三節)

KBIの授業中にO先生が、「君らがこれからどれだけ学び、祈るかによって、君らの将来が決まってくる」と話されたことを忘れることができません。卒業後は苦闘の連続。その中で学ばされたことは、自らが聖書に真摯な姿勢で向き合う事の大切さでした。振り返ると、御言葉こそが主への信頼を育み、志を堅固にしてくれたことを思います。主がKBI生の皆さんの志を堅固にし、尊く用いて下さいますように。

### 福井自由キリスト教会 元牧師 1980's 川瀬 清文 師



▲写真最前列、右から三番目が川瀬師  
1982年 KBI 一年生の時の遠足

# 聖霊 Holy Spirit

あることの実感が、愛と信仰を通して主を知ること成長させてくれます。第三は、「キリストへの信仰の従順を導く働き」です。聖霊によらなければキリストの栄光を現わす働きは生まれず、人間の努力では、神からの召しへの全き従順の信仰を持つことは出来ません。『霊無きキリストは空虚であり、キリスト無き霊は盲目である』『聖霊論は、キリスト論への賛美です』（R・ボーレン）

三十五年前、青年たちとスウェーデンに派遣されました。スウェーデンの地方教会を訪問し、私たちがその宣教の実であることを証しし、心からの感謝を表すことでした。最も心に残ったのは、ヤンソン宣教師の墓地に行ったことでした。「神は愛なり」の日本語の墓碑の周りで賛美しました。涙を止めることが出来ませんでした。聖霊の召した働きに従われた神の器への感謝が、涙と共に溢れ出て来たのです。聖霊は、父なる神の心を御子キリストにより私たちの心に語られます。十字架の贖いは、御霊の声を聞くことを実現しました。その「聖霊の働きの場」がキリストの教会です。聖霊は、キリストにある天の霊的祝福の「みこころの奥儀」を明らかにされます。今日、健全な霊性と神学を身につけ、真理のみことばをまっすぐに解き明かす神の器が必要です。

その働きを担っているのがKBIです。「聖霊が召した働きに就いて六十年」、KBIの歩みはこれからも続いて行くのです。神に栄光！

KBI 理事長  
南大阪福音教会 牧師  
**福野 正和 師**



▲前列 福元師と置田師 KBI生と共に



▲再来日されたスンベリ師ご夫妻と

私にとって、西宮でのKBI三年間の学びと訓練は素晴らしい体験でした。またKBIを通じていろいろな人たちと出会い、良い交わりを持つことが出来てとても感謝でした。寝食を共にして学ぶ中で、時には嫌なことや辛いこともありましたが、神様はすべてを益に変えて下さいます。KBI生の皆様の学びが祝福されることをお祈りしています！

**KBIで学ぶ 素晴らしさ**

**1990's**

京都キリスト福音教会 牧師  
**置田 信也 師**

# 2000~2010's 卒業生から 学生たちへメッセージ

## 2000's 尾上聖愛教会 牧師 黄金井 尚美 師



▲左から2番目が黄金井師

### 一人の礼拝者であり続け

「毎日、一生懸命献身することを学ぶ。」この言葉を何度も噛みしめて、もうすぐ二十年。自分を知れば知るほど、自分自身への期待は十字架につけられて、主に対する期待が純度を増していきました。

私たちに神の栄光をたたえさせるものは、職務ではなく恵みによるもの。瞬発力と持久力を保持し、召された場所を神への賛美で満たし続けて、どこまでも一人の礼拝者であり続けたいと願います。

KBIで育まれた事、心から感謝しています。

## 2010's 奈良福音教会 牧師 緒方 賢一 師



▲ファミリーメンバーとの交わり 右端が緒方師

### ただここに 立ち続ける

六十周年、おめでとうございます。今、コロナ禍で改めて思うのは、「十字架」

(その恵みを日々感謝し、自分を明け渡し、主を主として歩む)、「聖霊」(傾聴し、内なる方の力ある働きに委ねる)、そこから押し出されるところの「宣教」へキリストの体が一つになって喜び進むということ。複雑でなく単純に、ただそれだけ。これこそ変わらず、まず立ち続けるところだと。これからもその本質がKBIを通して流れていきますように。



▲同級生全員と

## 「宣教」

ハレルヤ！母校の六十周年・還暦ですね。主が先達を用いて始められた働きをここまで祝してくださったことに感謝をささげます。そして次の世代のリーダーと学生の皆さんが歴史に新たなページを加えていかれることを切に期待します。

今回私に与えられたテーマは宣教なのですが、いつから宣教という言葉が私自身の視界に入ってきたのかと思ひ返しますと、KBIの二年生の一学期（一九七八年）でした。ネパールで医療宣教に従事された岩村昇医師が学院に一週間滞在され、ある日証しの時がもたれました。氏の聖書解釈には主の奇跡の理解の仕方などで若干自由主義の香りがしましたが、その一方でキリストの愛を困難な環境の中でひたすら生き抜いてこられた力強さがありました。その時まで私の中には「開拓、開拓！日本のリバイバル」が献身の原点だったのですが、氏の語る「宇宙船地球号、運命共同体、私たちのうちにあるキリストの愛を

必要な人たちに分けてあげるのは当然ではないか。」というフレーズに私自身のうちにある日本というこだわり（心の堀）が外側に倒れていくのを経験しました。

翻って私たちの母校の特徴は「十字架と聖霊」でした。学生時代からよく考えていました。どちらも奥の深いテーマだが偏向しすぎてその恵みを正しく消化できなかつたら、自分磨きの世界に入ってしまうのではなにか。堂々巡りの功績主義、自己栄化になりかねない。いったいその流れ出ていく出口はどこなのか？

その時、開かれました、宣教だ。宣教につながっていかない十字架も聖霊も主が本来意図されたものではないはずだ。十字架による罪の赦しと自我の扱いは聖霊の満たしによって整理補完され、その必然的な結実は宣教なのだ。

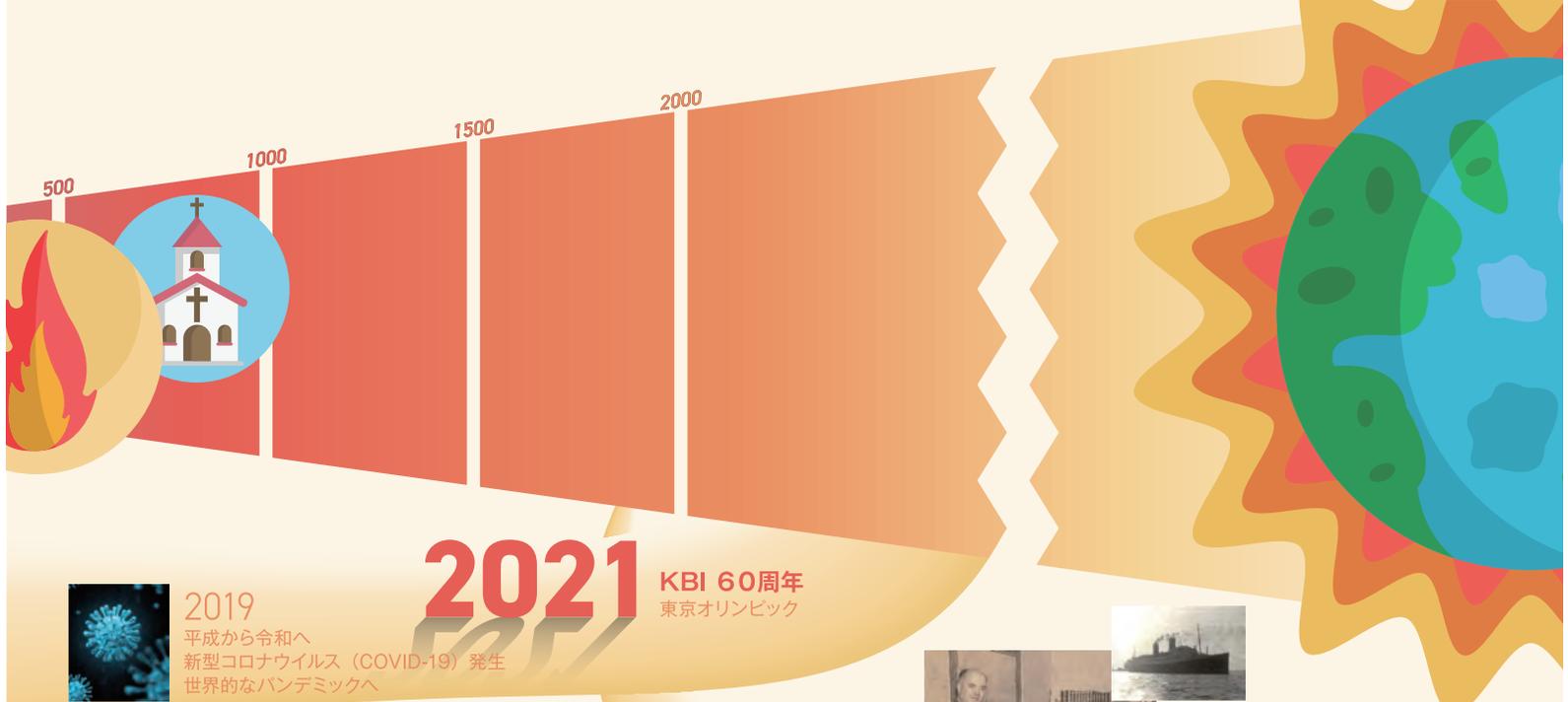
神様の全宇宙的贖いの中心に十字架があり、聖霊の傾注によって完成され、そしてめぐすところは「地の果てまでの宣教」な

のだ、と確信しました。それまではひたすら大げさすぎるように感じていた大宣教命令の一言一句が、主のみこころの中心的発露だと響いてきました。時を重ねて十四年後三十七才で家内と三人の子供と一緒にインドネシアに向かいました。その前年奥山実師（那須のMTC）による薫陶も私のDNAに刻まれました。宣教は新約のイエス様に始まるのではなく、創世記のアブラハムの召命から明確に示された神の遠大なご計画であること、世界宣教は必ず実現すること。それは主の再臨と直結する教会の本質にかかわる使命であることなどを教えられました。

KBI顧問（前KBI学院長）  
アンテオケ教会総主事  
**大田裕作師**

した。今、世界中の教会が動員されて「すべての未伝部族に福音を」の使命達成がこの世代のうちにも手の届くところまできています。私たちはこの歴史的な瞬間を傍観者ではなく、主体的な参与者として関わりたいものです。私たちは「出て行くか」「支え、送り出す側に回るか」です。日本の教会未設置町村、世界の未伝部族を福音で満たしていきたいでしょう。十字架と聖霊によって。祈りと力を合わせて。





# 2021 KBI 60周年 東京オリンピック



**2019**  
平成から令和へ  
新型コロナウイルス (COVID-19) 発生  
世界的なパンデミックへ



**1949**  
中華人民共和国建国  
すべての宣教師が国外退去



**1950**  
オレプロミッションによる日本宣教開始  
関西各地に教会形成



**1961** 大阪府堺市にて  
福音聖書学院 (EBI)  
スタート

1964 東京オリンピック開催

**1966** 兵庫県西宮市に移転



**1968** 校名を関西聖書学院 (KBI) に改称  
4つのミッションとの合同運営に。理事会を組織

**1971**  
沖縄返還協定調印  
翌年5月 日本に復帰



**1973** 教師・学生チームで諸教会訪問  
(キャラバン伝道の始まり)  
第一回 ワークスセミナー

**1981**  
KBI 20周年記念礼拝

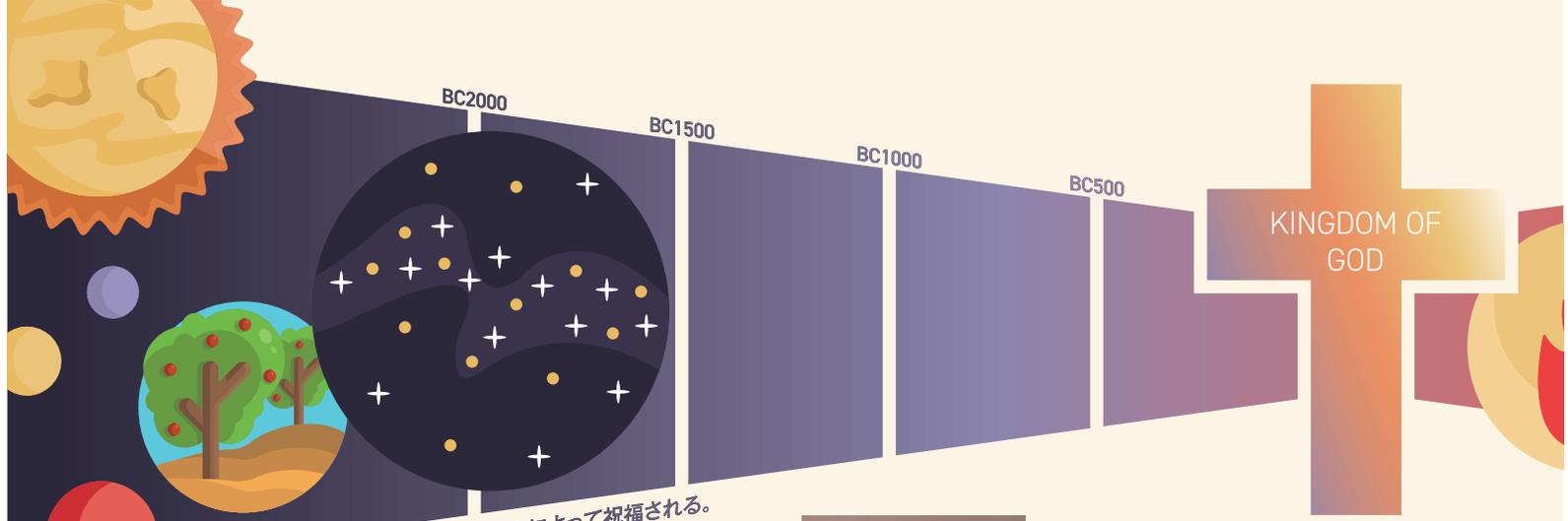
**1974** 第一回 日本伝道会議  
第一回 ローザンヌ世界伝道会議

**1978** KBI 建物3階部分増築・献堂



**1979**  
イラン革命  
イスラム原理主義の台頭





地のすべての部族は、あなたによって祝福される。  
創世記12章3節

**2012**  
開拓伝道者養成コース  
(CPC、後に CPRC) スタート



**2011** KBI 50 周年記念式典  
フレンズの会 設立 東日本大震災



**2006**  
ガリラヤチャペル完成  
家族寮 献堂式



**2005**  
奈良県生駒市に移転  
**2004**  
宣教師訓練コース (MTC) スタート



**2001**  
KBI 40 周年記念オープンセミナー  
(愛知県瀬戸市)  
米国で同時多発テロ

1995 阪神淡路大震災  
(KBI 校舎に甚大な被害)

1993 甲子園ミッション

**1992**  
第一回アウトリーチ (タイ・バンコク)

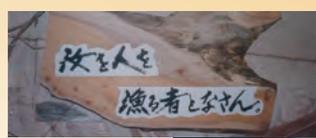


1989  
昭和から平成へ  
中国 天安門事件

**1982**  
KBI ニュース第一号刊行

1991  
湾岸戦争始まる  
ソ連・東欧の社会主義体制崩壊  
バブル経済崩壊へ

**1987** KBI 25 周年記念セミナー



# 宣教師の先生方からメッセージ

KBI創立60周年おめでとうございます！

主がこの日を造られたのです！どの方面から見ても神様の豊かな祝福が学院の上に注がれています。十字架、聖霊、宣教そしてみ言葉の強調が実りを与えています。しかしもう一つあります。D.L.ムーディーはこう言われました「神があなたのパートナーであるなら、あなたの計画を大きくして下さい！」西宮から生駒山への移転は丁度この様なことでした。

2003年から2007年までKBIで働いた期間は私たちの人生の最も密度の濃い神の恵みに満ちたアンフォゲッタブルな時でした！「キートス！」もう一度若さが与えられれば日本へ飛んで帰りたいです！主がますますKBIを祝福されますように！

ゼカリヤ 4:6 『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって。』と万軍の主は仰せられる。”

※「キートス！」はフィンランド語で (Kiitos) 「ありがとうございます！」です。 ※ “If God is your partner, make your plans BIG!” D.L. Moody

**ラッセ&レーナ・ハイモネン フィンランドより**



イエス・キリストにあってご挨拶申し上げます。

KBIファミリーの60年間の暖かいお交わりに神をほめたたえ、すべての関係者の皆さんにお祝い申し上げます。

私たちは1991年から94年の間KBIで働きました。KBIは常に密度の濃い内なる戦いとハードワークの場で、私たちの家族にとってもそうでした。それは、私たちのKBI後の歩みのためにとっても訓練となりました。

あるロング・プレイヤーで、兄弟達が高橋昭市先生を抱き囲っていたことは大きな思い出です。皆が真のキリストのからだとして抱擁し合いました。姉妹達と福元先生にも同じことがその時起こりました。多くの祝福の中で、主にある深い交わりはKBIから私たちにもたらされたものの一つです。現在、私たちはスウェーデンで一個教会につながる家の教会に於いてこのような交わりを試みています。

**ポー&ビギッタ・アートマーク スウェーデンより**



愛するKBIの皆さん。

KBI50周年記念行事に出席させて頂くという栄誉と特権にあずかってから、はや10年が経ちました。

又、KBIで教鞭をとらせていただき、理事の任にも当たらせて頂いてから20年以上が経ちました。

KBIは教会にとって、またFCMFにとっても神からの賜物です。

皆さんにあらためて心からお祝い申し上げます。

神様の祝福が絶えず皆さん方の上に注がれますようお願いいたします。

KBIでのみことばの学びは、まさに始まりであって、それから学び続けていくのです。

神ご自身の深みへ掘り下げ、さらに人々に届くように広げて行き、

導かれた魂を偉大な救い主であられるイエス・キリストに掲げ、

そして主のもとで安息するのです。

※ FCMF…自由クリスチャン伝道団フェローシップ

**シノヴェ・アンデルセン ノルウェーより**



# KBI支援団体の先生方から



## 小山 大三師

単立ペンテコステ教会フエローシップ  
KBI副理事長

昨年四月に学院長として高橋めぐみ先生、舎監として富浦信幸先生が就任されました。就任早々コロナ禍の中での舵取りとなりましたが、徹底した感染対策、オンライン講義による対応など、立派に舵取りがなされてきました。コロナ禍というチャレンジが、さらなるKBIの飛躍につながり日本宣教と世界宣教の大なる拡大に寄与することを願ひ祈っています。これからのKBIに期待することは、以下のとおりです。

- ① 牧会、伝道、教育、宣教における卒業生の活躍
- ② 継続教育の充実、オンラインによる通信教育の充実、他国の聖書学校との連携(国際的な器作り)、CPRCの充実、修士課程、博士課程の創設
- ③ 日本の戦略的地域における分校の創設

## 相馬 浩師

日本福音教会  
KBI財務理事

六十年と言えば人生における還暦です。その意味において新たな節目を迎えたと言えるかもしれません。けれど、人の一生では余生の始まりかも知れませんが、神の働きにおいては飛躍するステップと見るべきではないでしょうか。不毛の地と思えるような日本において、リバイバルに備える器を整えて育てることがとても重要です。収穫は多いが、働き手が少ない」と語られた主の言葉を知る時に、ますますKBIを通して働き人を訓練して育てる場となることを信じています。六十周年を心から主に感謝しほめたたえ、新しい神の御業が成されていくことを期待しています。

## マーク・マグヌソン師

ベタニアクリスチャンアッセンブリー  
KBI理事

六十歳の還暦おめでとうございます！KBIも今までの神様の多くの祝福を感謝し、初心に帰って新しい方法で新しい人に福音を伝える事ができますように！二千年の歴史ではパンデミックの中、教会は生き続け成長しました。コロナ禍の今暗闇と絶望の中に苦しんでいる人こそ聖霊の力と十字架の愛の光と希望が必要です。パウロは偶像と情欲に溺れたコリントで、言葉の知恵によらず神の力である十字架の言葉を伝え、人々が救われ教会が与えられました。パウロは何とかして幾人かでも救われ、御国のために獲得するため弱い人には弱い者となり、全ての人に全ての者となりました。KBI生も自分の十字架を背負い大きな愛とビジョンをもって次の六十一年に向けて大胆に十字架の言葉を世界へ宣べ伝えていきましょう！

## ジャン・ドウゲン師

ジャパンベサニーミッション  
KBI理事

昔、私はフィリピンのキャンプ場で、数本のアボカドの木の下に地面を埋め尽くすほどのアボカドが、無残にも散乱しているのを見ました。収穫する人がいないため、その殆どが腐りかけていました。日本の霊的収穫も刈り手不足の為、多くの魂はキリストのない永遠へ向かっていきます。そんな現状におけるKBIの役割は、以前に増して大きいものです。収穫の緊急性を自覚しつつ、聖書を土台とし、聖霊の力により個人伝道に従事する働き人を輩出する神学校でありつづけることを期待します。





**地域へのGo into**  
 ↳ 日常に教会がある幸せ

三年 石井 すみれ

今回私は和歌山県の白浜バプテストキリスト教会で、献身者としての姿勢、国内でのGo into実践とはどういうことなのかを学び、まるでもう一つの神学校に行った様な経験ができました。

この教会では、三段壁という崖で自死しようとしていた方を保護し、共同生活をしながら社会復帰に向けたサポートをしています。また学童保育を通して、子どもたちの自死の予防にもつなげていきます。年齢や職業を越えて、幅広く「地域につながり、地域に根ざす教会」として、この場所になくはならない尊い働きです。

この地で「私たちには何ができるだろう」と考えて行きましたが、実際は全てが用意されていました。ただ楽しい経験だけでなく、藤藪先生から投げかけられた、「献身者とは二十四時間神様に仕えている者です。自己主張ではありません。献身者というところから降りずに、人々

と関係を作ることに挑戦してください。この部分は私たちの役割ではない、というものはありません。」という先生の言葉を、「考え、葛藤し、実践してみる場」でした。

「すべての人に、すべてのものとなった」先生やスタッフの方々の情熱と、今年度三年生で掲げた「Reach One More For JESUS」という標語とが重なり、心燃やされました。教会ごとに与えられている神様の豊かな使命が、「普通の生活」の中へ入って行き、そこで根ざすことができるように、地域を知り、愛し、仕える者になりたいです。



導かれた出会い

二年 石坂 結

私たちのファミリーは兵庫県の上郡福音教会を拠点として、上郡、佐用、智頭、テクノポリスなどで活動しました。地域の方々との関係づくりを大切にしながら、トラクト配りやポスティングをして多くの出会いが与えられました。

私にとって印象的だったのは、教会の隣に住むベトナムの方々との出会いでした。教会の隣のアパートには、地域の養鶏場などで働くベトナムやフィリピンの方々が大勢住んでいます。しかし、「あまり関わりを持っていない」と先生方が話しておられたので、私は滞在中に少しでも関われるチャンスが与えられるように祈りながら過ごしました。四日目の夕方、奉仕の合間に少し時間が空いたので、教会の窓からアパートを覗きました。誰も見えませんでした。「行くなら今しかない」と感じ、思い切って出かけることにしました。すると、ちょうどアパートに着いた時、一人の青年が出てきたのです。機会があれば彼らと話

せるようにと練習したベトナム語で挨拶し、カタコトの英語と日本語で自分のことや教会のことを紹介しました。その後、彼は友人と二人で教会に足を運んでくれ、「初めてクリスチャンと会い、教会に入った」と話してくれました。さらにその後、彼の友人たちも二十名程集まり、私たちファミリーと一緒にサッカーをして楽しい交わりの時間を持つことが出来ました。一つ一つの出会いを導き、扉を開いてくださる主に心から感謝します！



恐れないで、語り続けなさい

一年 遠藤 栄希

宣教ウィークで私は滋賀県信楽町に行ってきました。私たちの掲げた目標は、信楽町の四千世帯すべてにトラクト配布をするというものです。家と家の距離が遠いので、一枚配るのに長い距離を歩きました。その途中、聖書の時代には弟子たちが福音を広めるために足を使って練り歩いてきた事を思い出しました。自分も当時の弟子達のように、宣教の最前線に立たせて頂いているのだという実感と喜びが湧き、言葉にし難い力を受けました。

ある家に投函しようと近づくと、庭先に高齢の女性がいらっしやいました。とても綺麗にお庭を手入れされていたので、「お花綺麗ですね。」と声をかけたことがきっかけで会話が弾みました。話をするなかで私がクリスチャンである事、「キリストさん」が私達の罪のため十字架で身代わりとなった事、復活し今も私達を愛し続けて下さっている事、それを信じるだけで天国に行ける事など、福音を伝え、「信じま

せんか」と問いかけました。すると、「信じます」と答えて下さったのです。今は雲井キリスト福音教会につながっています。そしてこの女性だけでなく、翌日も同じようにもう一人の方が救いへと導かれたのです。主の御業を目の当たりにし、感動と共に畏れを抱きました。今はこの御言葉が生きた主の言葉であると実感しています。「恐れないで、語り続けなさい。」この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。」(使徒の働き十八章九〜十節)



# リモートKBIって 実際どうなの？

2021/9/1~2021/10/3



コロナ禍のため、KBI始めて以来初の在宅オンライン授業。  
それぞれの場所で、限りない神様の愛と恵みを  
受け取る時間となりました！

## 前進する神の国の力

三年 瀬在 曜子

コロナ禍のため今年九月、遂にKBIもオンライン授業になった。最初はKBIの強みである寮生活ができないことは、大打撃のように思えた。しかしこの期間に、私は前進し続ける神の国の力強さを教えられた。今年度の私の奉仕教会は神戸にあり、通常だと教会に赴き説教を語るが、実家は東京なので行くことはできない。しかし、主は母教会から奉仕教会にZoomで説教を届ける道を開かれた。毎週日曜日、がらんとした母教会の一階では牧師である父が、二階では私がそれぞれ遠く離れた群れに向けて福音を発信した。毎週説教の要約も郵送した。KBIの「今だからこそできる伝道を押したのだ。どんな障壁があっても、神の国は力強く前進していく。その真理を学んだりリモートKBI生活は、私にとって貴重な体験だった。

## オンラインだからこそ

二年 井上 貴志

オンライン授業は大変なこともありますが、良いこともたくさんあります。一人ひとりの顔がよく見えることはその一つです。普段なら授業中にクラスメートの顔を見ることはほとんどありませんが、オンラインではマスクを外した顔を見ることができ、「授業を一緒に受けている」という一体感もあるように思います。またこのような状況だからこそ、それぞれが意識してコミュニケーションを取ろうとしているので、空いている時間を使ってZoomで近況報告をしたり、お互いに祈る時間をもっていることが感謝です。オンライン授業になった当初は否定的な考えもありましたが、今はオンラインならではの良さに気づかされ、それを楽しんでいきます。コロナ禍でも満ち溢れる主の恵みに目を留める者でありたいと願います。

## 主の宮にとどまる

一年 永田 愛香

オンライン授業での二学期が始まった日、主から「主の宮にとどまりなさい」と語られました。それから私は毎朝、KBIの祈禱会が始まる前に、母教会の会堂で一人だけで祈る時間を始めました。心配事や要求の祈りを止め、この朝の時間だけはただ主の恵みを思い巡らし、賛美や祈りをもって礼拝しました。そのように祈る時、いつも主の愛により私の心は満たされました。主が私の心を造り変えるため、一日一日ゆっくと耕してくださっているのを感じました。また、その後の授業ではオンラインだからこそ、みことば（神様）対自分の空間をいつも以上にみつことができ、とても実り豊かなものになったことを感謝します。主と一つとなること、それが私の一番の願いです。

# 特別講義「サーバンントリーダー」

三年 菅沼 聖化

九月二十四日に行われた特別講義は、ニューライフキリスト教会の豊田信行牧師によるサーバンントリーダーについての学びだった。豊田先生は、マタイ二十章二十六節後半のイエス様の言葉から「一般的な偉大さの定義は権力であるが、キリスト者の偉大さの定義は影響力である」と語られた。また「リーダー＝影響力のある人」と更に説明を加えられ、「権力による支配は長続きしないが、影響力は長く続く」とされた。私は今までリーダーの影響力についてあまり意識してこなかったもので、初めは少し意外に感じた。しかしイエス様と照らし合わせていく中ですぐに納得することができた。

また先生は「日本のクリスチャンは少ないが、だからこそ価値があり、既に周りに影響を与えている」と語ってくださった。私はこの視点が自分や、また日本のクリスチャンにとって本当に必要なことであると感じた。

私はどこかで自分の影響力は小さいと考えていたことに気付かされたからだ。しかし、自分は誰かに良い影響を与えることができていると嘆くのではなく、また日本のクリスチャン人口の少なさを嘆くのではなく、神様が数少ないクリスチャンの私たちを通して表しておられる影響力に、もっと目が開かれていく必要があると思った。

今回講義を受けて、サーバンントリーダーの学びは一生をかけての学びであることが分かった。そしてサーバンントリーダーは、イエス様から自立したリーダーにならなくて良いことを教えられた。イエス様は何回でも私たちに仕えることを喜びとしてくださるからだ。イエス様が私たちに仕えてくださることに心を開くことが、私たちが他の人に仕えていくことにつながる。私は講義を終えても尚、神様にどれだけ心を開いて、神様に仕えてもらっているだろうかと心を探らされている。

## ご献金感謝します

献金者名簿（日付順・敬称略）（2021.5.11～2021.8.31）（KBIへの直接献金分）

### ■一般会計献金

#### <KBIを支える会>

個人：高橋昭市、大塚マリ、安黒務、黄金井尚美、斎藤邦夫、兼松道子、川崎豊信・綾子、豊村善典、安野清子、石崎政登、高橋めぐみ、加賀清孝、増永弘、菅徹哉・直美、井野葉由美、秋元清友、岩本美保、ポー・アートマーク、岡本哲二、酒井哲男、石塚史栄、山口美恵子、山舗岳、松本伸一郎・亜紀子、鶴野英子、二口啓一・千里、菅沼威、田中憲昭、服部守一、熊本直美、田野秀康、日向さやか、塚原利喜男・真理、嶋林泰代、浜田美貴子、梶川光、馬場昭、吉田美恵、吉岡家子、匿名希望1名

教会 & 団体：尾上聖愛教会、鈴鹿キリスト福音教会、旭川神愛キリスト教会、チャペル犬山、狭山福音教会、京都シオンの丘キリスト教会、香芝ゴスペルチャーチ、八尾南福音教会、浜松汀キリスト教会、奈良福音教会、園田チャペル、美浜ベテルキリスト教会、ベテル清水教会、カナン・プレイズ・チャーチ、まんでがんバイブルチャーチ、ゴスペルチャーチ千里、山の辺キリスト教会、西可児キリスト教会、可児福音教会、東京チャペル、北九州チャペル、さんだグレイスチャペル

#### <運営支援献金>

岐阜純福音大森チャーチ、美濃グレースチャーチ、

御殿場純福音キリスト教会、鶴見純福音教会、岐阜純福音教会、保土ヶ谷純福音教会、ジャパン・ベサニー・ミッション、松岡福音教会

■前回掲載「KBI支援協力会(FCMF諸教会)」内訳(教会名・五十音順)  
勝山自由キリスト教会、金津福音キリスト教会、北広島自由キリスト教会、神戸フィラデルフィア教会、小松南部キリスト教会、瀬戸サレム教会、武生自由キリスト教会、丸岡福音キリスト教会、福井自由キリスト教会

#### <特別献金>

##### 1. 建設基金献金

個人：春名裕

教会 & 団体：岐阜純福音教会、秦野クリスチャンセンター

##### 2. その他

個人：竹川正英、永島陽子、上坂進、吉田美恵

教会 & 団体：雲井キリスト福音教会、上郡福音教会、狭山福音教会、KBI 学生・スタッフ（KBI 礼拝献金）、大阪基督教生命堂

##### ■奨学基金献金

個人：竹川正英、出原市子、西孝司、藤井三紀子、森本裕・眞美子、中村典子、芝蓮代、長谷川みちる、森本裕・眞美子、吉田美恵

教会 & 団体：チャペル犬山

※KBIへの直接献金分のみ記載しています。各団体に献金して下さっている場合、教会名でなくその団体名を記載しています。どうぞご了承ください。

2022年度

# 新入生募集

## 本科コース(1~3年)

応募締め切り 2022年3月18日(金)

## 短期コース(3週間)

応募締め切り 2022年3月18日(金)

日程:2022年4月12日(火)入学式~4月30日(土)修了チャペル

## 教会開拓・刷新コース(CPRC)

※CPRC=Church Planting&Renewal Course

1泊2日、年8回(2年間)

原則毎月第三火曜日 15:30から翌日昼食まで

## 宣教師訓練コース(MTC)

受講希望者はこちらをご覧ください。

※MTC=Missionary Training Course

## 通信教育コース

・本科編入コース

・生涯学習コース

入学は随時募集しております。



SNSも更新中

応援よろしくお願いします!



KBI関西聖書学院

各コースの資料請求は事務所またはホームページよりお問い合わせください。

電話:0743-70-8600

FAX:0743-70-8601

Email:kbi-mark117@ares.eonet.ne.jp

HP:www.kbiwave.com

### オンライン授業の期間を終えて

#### KBIスタッフ

金森 斉子

KBIに学生が戻ってこないということがあったら、今まで思ってもみないことでした。今年度のはじめから食事以外、ほぼマスクをする生活を余儀なくされてきました。そのため、Zoomの画面越しに学生たちとマスカナしで交わりが持てるのは、とても新鮮でした。学院に学生がいなくて、ふとした瞬間に学生の顔が浮かび、祈らされると同時に、多くの祈りがささげられていくことを感じました。それぞれの場所にあつてその時でしか受けられない訓練、主からの恵みが豊かであったと思います。

「わたしの恵みはあなたに十分である。」と、今日も主が語ってくださいます。当たり前が当たり前でなくなっているこの時、与えられている時間を大切に歩んでいきたいです。

#### OB・OG通信

有馬陽介師

南さつまキリスト福音教会

牧師就任

二〇二一年八月一日

#### ● 祈りの課題 ●

・WithコロナでのKBI生の学びと訓練のために。

・十一月十三日(土)~十四日(日)に予定されているKBIを覚える日(KBI六〇周年)のために。

・十一月二十三日(火・祝)のフレンズの会ワーカーズシェア(オンライン)の祝福のために。

・理事、教師、スタッフの健康と霊性の祝福のために。

・来年度の新生のために。

・更なる宣教発信をビジョンに、ガリラヤアクセス路改修プロジェクトを進めることができるように。

#### △とりなし手の募集▽

KBIを覚えて、とりなし祈って下さる方を募集します。是非kbi-luke24@hera.eonet.ne.jpまでご連絡ください。毎月祈りのリクエストをお知らせします。また、緊急の祈り課題もお伝えします。